グループ展「TODAY'S ACTION」に参加して

草野（くさの） 義彦（よしひこ）

去る二〇一九年一〇月二一日～二六日に岩手県盛岡市の古い蔵のギャラリー〈gallery 彩園子（サイエンス）〉で開催されたグループ展「TODAY'S ACTION」第四回研究会展に、妻と一緒に参加しました。

このグループ展は、武蔵野美術大学名誉教授の田中秀穂氏が卒業生に呼びかけて始まったもので、その主旨は大学を卒業して制作活動をやめてしまう人が多い。そうした人達に発表や交流の機会を設け、再びアートやデザインの世界で、「活動を開始して欲しい」というものです。今回は、卒業生六〇名が集って行う作品展となりました。

グループ展のこれまでの流れとしては、かつて学生主体で行われてきた「TODAY、S ART TEXTILE」の流れをくんで始まった一～二回は東京で、三回目は田中氏が非常勤講師として岩手大学に勤めていた縁から盛岡の会場で開催し、今回は四回目となります。

もちろん、作家活動を卒業後続けている若い人々も多く参加し、北海道から九州まで全国各地の作家の作品に接することができる、とてもよい機会でした。地元新聞社の盛岡タイムスにも掲載され、地域の多くの方々に見て頂くことができました。

内容は繊維造形(テキスタイル)、絵画や立体、製品デザインなど様々です。

しばらく制作活動や発表活動から遠ざかっていた私と妻には、よい機会になると考えグループ展に参加することになりました。

妻は大学時代から制作している視

覚障がい児の「絵本」を出品することにしたので、私も少しずつ制作していた「木のおもちゃ」を、二人でユニバーサルデザインの「絵本」と「木のおもちゃ」として発表・展示しようと考えました。

ユニバーサルデザインとは、「文化・言語・国籍や年齢・性別などの違い、能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人が利用できることを目指した建築・製品・情報などの設計のことであり、またそれを実現するためのプロセス」が基本コンセプトです。デザイン対象を障がい者や高齢者に限定していない点が「バリアフリー」とは異なります。

私は新しい作品をつくろうとアイディア・スケッチから始めたのですが、材料も道具も場所も思うようにはならず、時間ばかりが過ぎて行ってしまいました。そこで、これまでの作品をユニバーサルデザインの視点で考え直すことにしました。つまり、「木のおもちゃ」を視覚障がい児を含む多くの子どもたちが楽しめるように五感にうったえるデザインをし、さらに子供たちの発達段階や手、指の大きさも考慮し、工夫して表現することにしました。いろいろと試行錯誤が始まりました。

まず、動きの面白さを私なりに追求した「カタカタあひる」という作品をユニバーサルデザインの視点で捉え直しました。作品はひもを引くと首をカタカタ振って、ついて来る形状をしています。せっかく首を上下に振るので首輪に鈴を付けて「心地よい音」がするように、また鈴がデザイン的にも一つのアクセントになるように考えていきました。

次に、以前制作したパズルをユニバーサルデザインの視点で考え直しました。多くの子どもたちに楽しんで遊んでもらうには、ピース数が多く、一つ一つの形も複雑なので難しいと考えました。その解決策として、いろいろな手がかりがつかめるように進めていきました。

一つは色彩です。補色を使い、より鮮明に分かりやすくし、色の魅力を加えました。また、下の台にもピースの形をそれぞれ彫っておき、台とそれに対応するピースに点字でナンバリングを施しました。一つ一つのピースが、子どもの小さな指でも、つかみやすいよう裏にフェルトを貼って高くしました。パズル全体のかたちの変化にも

つながります。最終的には、孫に遊んでもらいデザインの確認をしました。

出品した作品はひもを引くと、首をカタカタ振ってついて来る「カタカタあひる」と「なつの海」というパズルとなりました。

妻は、絵画的表現をした上に液体プラスチックを施した絵本、様々な手ざわりを楽しめるように、いろいろな質感の素材を立体的に表現した絵本、英訳をした絵本など五冊を出品しました。どの作品にも透明なタックシールで点字をつけました。

ユニバーサルデザインの「絵本」と「木のおもちゃ」を二人で表現、制作、発表することにより、幅広い提案ができたように思います。これは何よりの収穫でした。また今回、より深く自分自身の作品を捉え直すことができました。このグループ展に参加して、何か一歩踏み出せたような気がしています。大きなエネルギーになりました。

これからの課題としては、さらに工夫と改善を進め、作品数を増やし、実際に活用できる環境と手立てを模索していくことだと考えています。二一日(月)の午前中に粕谷、横山両氏が会場を訪れてくれました。粕谷氏は前日の搬入展示、内部鑑賞会にも来てくれました。二人は熱心に作品を鑑賞してくれました。二人は博識ですが、ユニバーサルデザインについても知識があり、いろいろと話し合うことができました。

その後、二人と盛岡市内を見学してまわりました。北上川から上流の岩手山が見える景色は本当に素敵でした。何か高原のような清々しさがあります。横山氏は生まれ故郷ということもあって、感慨深いものがあったようです。子どもの頃の話は大変興味深く、盛岡という土地に親しみを覚えました。

遠くまで都合をつけて、見に来てくれた二人には心から感謝しています。